HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」49号
Issue Date	1979-01-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66723
Type	journal
File Information	yuin49.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

掵音

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 49　Jan 1979

図書館職員と研修

事務部長　矢　部　一　郎

昨年10月16～17日の両日にわたって当館において昭和53年北海道地区国立大学図書館職員研修が実施された。

言うまでもなく，国立大学附属図書館職員は，国家公務員として，国家公務員法や人事院規則等をうけて，勤務能率の発揮および増進のために計画された研修を受け，その官職に必要な知識，技術の修得につとめ，旺盛な研究意欲をもって職務に専念しなければならないが，とくに大学図書館職員にあっては，研修が常に必要かつ重要であることは，国立大学図書館改善要項（昭和27年）にも，「大学図書館の職員には，その職務の特殊性にかんがみ，つとめて再教育と研修を受ける機会を与え，専門知識と技術の向上を図り，職階，職級の改善につとめること」と記されていることによっても明らかである。

このような観点から，北海道地区国立大学図書館職員研修は，図書館の専門知識と行政能力，両面の修得を指向して，毎年定期的に計画，実施されている。幸い今回も文部省学術国際局情報図書館課をはじめ，関係諸大学ならびに本学事務局のご支援，ご協力，また講師各位のご厚意によって，職員研修が初期の成果をおさめて無事終了することができた。ちなみに，53年度の研修内容は次表のとおりである。

研　修　内　容	講　　師	
図書館保有情報資源の比較 —都道府県別指標から—	慶応義塾大学文学部図書館　情報学科講師	高　山　正　也
図書館行政 —予算関係を主として—	文部省学術国際局情報図書館課 大学図書館係長	雨　森　弘　行
特別講演	北海道大学附属図書館長	高　嶋　正　彦
国の契約について	北海道大学経理部経理課長	都　築　昭　二
学術雑誌の変貌	東北大学附属図書館事務部長	長　尾　公　司
職場における人間関係	北海道大学庶務部長	森　井　宏　一

本来，大学図書館職員の研修目的が，図書館利用者に対し，迅速，正確，最新，信頼度の高い，良質の学術情報を提供するため，図書館専門職員の資質，能力，技術の向上と修得に資するためである以上，職員研修は，できるかぎり，継続的，計画的に，また研修対象者に適応

した研修のテーマ，内容，レベル，方式によって，主題別，研修対象者別等に分けて，各種の研修企画をもつことが理想であるが，大学図書館の現場における種々の制約から，今回の当館の職員研修は，実務経験5年以上の職員を対象として前記のように実施された。

このほかにも，道内では北海道地区大学図書館協議会主催の，国公私立大学図書館職員を対象とする研究集会をはじめ，多くの研修会が毎年定期的に開催され，ユニークな研究発表や事例報告がなされ，研修成果をあげている。

学内や地区内の大学図書館職員研修については，上記の通りであり，未だ充分とは言えないが，幸いにも，文部省はじめ関係省庁および図書館関係諸団体等による，中央での研修，講習，セミナー等も，しばしば開催されるようになり，とりわけ文部省のご尽力により，困難な事情のもとにも拘わらず，大学図書館専門職員のための長期，短期の研修や海外研修が毎年実施され，大学図書館の現場からも職員が参加できるようになったことは，大学図書館にとって大きな前進と言わなければなるまい。図書館職員の研修の機会を，更に増加する意味においても，今後一層の充実方をお願いしたい。

今年も多くの図書館員を，各種の研修等に参加させ，専門職員として必要な課目を履修させることができたが，これからも館務や予算等事情の許すかぎり，継続的に研修教育を施し，大学図書館の運営に，研修の成果を十二分に反映させ，また研修を契機として，職員の研鑽努力の気風が一層昂揚されることを望みたい。

◆ 研　修

第91回　図書館委員会

<と　き　昭和53年6月3日（土）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和52年度決算報告について
2. 昭和53年度予算（案）について
3. そ の 他

第92回　図書館委員会

<と　き　昭和53年6月24日（土）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和53年度歳出実行予算（案）について
2. 閲覧個室（第二種）について
3. そ の 他

第93回　図書館委員会

<と　き　昭和53年9月30日（土）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 学部共通図書について
2. 外国図書の収書計画について
3. 閲覧個室について
4. そ の 他

第94回　図書館委員会

<と　き　昭和53年11月25日（土）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 学生用図書費について
2. そ の 他

第57回　教養分館委員会

<とき　昭和53日6年1月(木)>

<ところ　教養分館長室>

1. 昭和52年度決算報告について
2. 昭和53年度図書費要求書(案)について
3. 昭和53年度前期演習室の利用について
4. その他

第58回　教養分館委員会

<とき　昭和53年6月22日(木)>

<ところ　教養分館長室>

1. 昭和53年度歳出実行予算(案)について
2. 北海道大学附属図書館教養分館
   語学演習室利用要項(案)について
3. その他

第59回　教養分館委員会

<とき　昭和53年7月12日(水)>

<ところ　教養分館長室>

1. 「教官指定図書」の選定について
2. その他

第60回　教養分館委員会

<とき　昭和53年11月21日(火)>

<ところ　教養分館長室>

1. 参考図書の選定について
2. 昭和53年度後期演習室の利用について
3. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<とき　昭和53年3月10日(金)>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 外国雑誌概算戻入額について
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<とき　昭和53年5月12日(金)>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 北海道地区国立大学図書館協議会報告
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<とき　昭和53年6月28日(水)>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 会計実地検査について
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<とき　昭和53年7月26日(水)>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 会計実地検査について
2. その他

全学図書（担当）掛長連絡会議

<と き　昭和53年9月8日（金）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和52年度会計実地検査結果について
2. 1979年外国雑誌新規購入及び変更データについて
3. そ の 他

第25回　国立大学図書館協議会総会

標記総会は，去る6月14日（水）から6月16日（金）までの3日間にわたり，筑波大学，国立教育会館筑波分館（当番館：関東地区協議会，会場館：筑波大学）において開催された。

参加校は，初参加の高知医大，佐賀医大，大分医大を含め84大学とオブザーバーとして図書館短期大学，国文学研究資料館が参加した。

参加者は，館長，事務部（課）長，事務長等195名，さらに文部省より，遠山情報図書館課長，田中専門員，雨森大学図書館係長が列席された。

会議は，第1日目：開会式，準備理事会，第2日目：諸報告，協議研究集会，第3日目：分科会，全体会議の順で行なわれた。

以下，主な項目としては，

I. 各地区協議会報告

各地区連絡館より，地区協議会の活動状況について報告があった。

II. 各調査研究班及び特別委員会報告

「図書館機械化」調査研究班，「大学図書館改善」調査研究班，「図書館相互協力」調査研究班，大学図書館基本問題特別委員会からそれぞれ報告があり，「大学図書館改善」調査研究班，大学図書館基本問題特別委員会は，今総会をもって任務終了し解散することが承認された。

III. 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会報告

今年度の協議会賞（旧岸本奨励賞）は，該当者がない旨報告があった。

IV. 研 究 集 会

「大学図書館の相互協力とネットワーク」をテーマとして，中山和彦（筑波大学教授，同大学術情報処理センター長，文部省学術調査官），松村多美子（図書館短期大学助教授，文部省学術調査官）両氏の講演を中心として行なわれた。

V. 分 科 会

第1分科会（一般事項及び運営に関する問題）

協議事項　1. 国立大学図書館協議会の組織及び運営について　2. 図書館必要面積の算定基準の改定について　3. 図書館施設基準を改訂することについて　4. 国立学校建物必要面積基準の改訂について

第2分科会（予算・人事）

協議事項及び要望事項　（予算）1. 図書館維持費について　2. 図書購入費について　3. 大学図書館調査研究への助成について　（人事）1. 図書館職員の増員について　2. 待遇改善について　3. 課長補佐，事務長補佐の設置について　4. 高度の学識・技術を有する司書の処遇，例えば（専門官制度など）について　5. その他（外国図書・雑誌等の購入の際の納入価格設定のしかたについて

第3分科会（サービス及び技術的問題）

要望事項　1. 業界に対する図書の刊行に際しての著者，書名の正確な読みを付記することについて　2. 冷暖房設備とその維持費について　3. 時間外開館について

以上の各地区提出議題について，活発な討議が行なわれた。

VI. そ の 他

次回の総会は，近畿地区において開催されることが決定した。

なお，「総会資料」は図書館参考図書閲覧室の図書館学資料コーナーに備付られている。

第10回　国連寄託図書館会議

日　時：昭和53年9月21日(木)～22日(金)

場　所：北海道大学経済学部会議室

参加館は，東北大学，外務省，国連広報センター，国立国会図書館，東京大学，愛知県勤労会館，九州国連寄託図書館，西南学院大学，北海道大学の計10館で，オヴザーバーとして，北大附属図書館事務部長矢部一郎氏，閲覧課長若月修氏，参考掛長山本幾夫氏が出席された。

会議の概略は，第1日目午前中は，松井経済学部長の開会の辞及び国連広報センター福田菊氏から挨拶があり，北大経済学部所哲也教授による記念講演「南北問題について」が行なわれた。午後は，各館における参考事例報告の発表と，国連資料についての質問等がだされ活発な意見交換がなされた。引き続き新刊図書の紹介があり，西南学院大学の杉野哲谷氏が「A Guide to the World, Foreign Statistics, 1977」と「国連軍縮年鑑」について，また東北大学の石川亮氏が「Directory of United Nations Information Systems and Services」について，それぞれ発表された。

第2日目は，午前中国立国会図書館の石川光二氏による「国際連盟・国際連合関係の文献書誌類の内容比較分析結果報告」の有益な研究発表があった。午後は，東京大学の浜村小夜子氏が「新国際経済秩序に関する文献について」と題する研究発表があり，続いて，本学部朝倉美恵子助手による「Nuclear-Weapon-Free Zones」についての新刊図書紹介がなされた。

また，国連への要望事項について，愛知県勤労会館の熊谷繁男氏から，国際連合地域会議への参加及び主催地に対する希望等が出され，来年度の開催場所は東京において行ない外務省国連資料室が当番館として決った。

最後に，本学部の荒又重雄図書館委員から閉会の辞があり，盛会裡に会議日程を無事終了した。

(経済学部)

◆ 研　　修

昭和53年度大学図書館職員長期研修に参加して

本研修会は，今年で第10回目を迎え，8月7日より9月2日までの4週間，図書館短期大学を主な会場として，東京学芸大学附属図書館，一橋大学附属図書館，慶応大学理工学情報センター，国際医学情報センター，国立赤城青年の家等で開催された。

参加者は，国立大学　32名，国立高専　1名，公立大学　1名，私立大学　5名の合計39名であった。

この研修は，大学における教育・研究の急速な進展にともない，大学図書館が図書資料および情報を利用者に迅速かつ的確に提供することの重要性が高まり，このため大学図書館は，利用者の高度な要求に即応した資料の提供体制を整備するとともに，図書館業務の合理化，機械化によるサービス向上と情報提供のサービスの質的改善を図るとともに，大学図書館の近代化を促進することを目的としているものである。

今回の主な研修科目は，1：大学図書館の管理運営，2：情報管理とコンピューター，3：参考業務の3項目を柱として行なわれた。

1については，大学図書館行政，組織機構と管理運営，人事管理等で，大学図書館という組織体をいかに効率よく機能させるかということ，また，職場における業務の円滑な遂行にとって常に問題になる人間関係についてが特に強調された。

昨年から採用された「図書館サービスの改善」について日本能率協会が指導する“グループKJ法”は，1グループ5～6名に分かれてグループ毎に問題テーマを決め，その現状把握をして，本質を追求し，それに対する対策を立て改善への結論をだそうというものである。

それぞれの大学図書館がかかえる問題を小グループで討議できたことは，大変有意義であった。

2については，図書館とコンピューター，情報検索システムの現状，図書館業務のコンピューター化等で，大学図書館の機械化にともなって従来からの業務体系をシステム化し，標準化していくことにあると思われる。

大学図書館のコンピューター化のための将来構想を考えると同時に図書館員各自がコンピューターを利用できる能力を身につけるべく努力する必要性を痛感した。

3については，人文・社会系は東京学芸大学附属図書館，一橋大学附属図書館で，自然科学系は慶応大学理工学情報センター，国際医学情報センターと2つのグループに分かれ，二次資料の解説とその利用法等について講義と実習が行われた。私は人文・社会系のグループで，それぞれに与えられた参考質問の例題に連日熱心な実習が行われ非常に有益であった。

見学は，日本電信電話公社，東京工業大学附属図書館，国文学研究資料館，日本科学技術情報センター，国立国会図書館6カ所を見せていただき，それぞれのところのシステム分析や業務内容についての説明を聞くことができ大変参考となった。

共同研究討議は，猛暑の東京を離れて会場を赤城青年の家に移し，研修生一同が寝食を共にし，グループに分かれて連日活発な討議が行われた。

以上，簡単に概略を述べましたが，今年は記録的な暑さ続きで私自身少々バテ気味でありましたが，本研修会に参加したことによって，各大学の実情や業務の諸問題等について意見を交換しあったことは大きな収穫であった。　（教養分館整理掛長　船木敏美）

◆ 統　計

部局別蔵書冊数

(昭和53年3月31日現在)

区分 / 部局	和書	洋書	合計	備考
附属図書館	370,277	217,140	587,417	文，法，経管理換分含む
教養分館	60,809	8,191	69,000	
文学部	47,766	73,543	121,309	86,634冊図書館に管理換
教育学部	36,001	17,668	53,669	
法学部	(全蔵書図書館に管理換)			
経済学部	31,092	22,526	53,618	47,135冊図書館に管理換
理学部	39,579	105,726	145,305	
医学部	50,948	64,176	115,124	附属病院を含む
歯学部	6,848	7,064	13,912	〃
薬学部	3,103	8,158	11,261	
工学部	133,357	106,887	240,244	
農学部	135,879	88,414	224,293	附属農場，附属演習林を含む
獣医学部	7,847	15,184	23,031	
水産学部	57,508	32,945	90,453	
大学院環境科学研究科	1,108	302	1,410	
低温科学研究所	4,864	10,041	14,905	
応用電気研究所	3,834	9,065	12,899	
触媒研究所	1,928	6,231	8,159	
免疫科学研究所	1,190	4,247	5,437	
教養部	23,116	11,056	34,172	
事務局	1,695	123	1,818	
学生部	600	97	697	
大型計算機センター	587	397	984	
スラブ研究センター	229	1,628	1,857	20,434冊図書館に管理換
合計	1,020,165	810,809	1,830,974	

昭和52年度部局別図書，雑誌受入冊数

区分 部局	和書 購入(単)	和書 購入(雑)	和書 寄贈(単)	和書 寄贈(雑)	和書 小計	洋書 購入(単)	洋書 購入(雑)	洋書 寄贈(単)	洋書 寄贈(雑)	洋書 小計	備考
文学部	3,599	92	680	886	5,257	5,256	361	421	33	6,071	
教育学学	2,405	196	36	460	3,097	603	157	2	7	769	
法学部	1,295	98	54	334	1,781	2,221	230	280	45	2,776	
経済学部	1,562	125	150	780	2,617	1,524	195	62	62	1,843	
理学部	820	100	280	228	1,428	1,430	658	909	229	3,226	
医学部	1,032	303	43	410	1,788	546	724	29	56	1,355	附属病院含む
歯学部	359	71	113	112	655	199	189	2	35	425	〃
薬学部	128	19	18	22	187	126	92	18	2	238	
工学部	3,860	313	239	738	5,150	1,760	685	67	125	2,637	
農学部	2,745	293	1,300	727	5,065	800	488	179	185	1,652	附属農場 〃演習林 含む
獣医学部	163	31	24	226	444	166	136	4	194	500	
水産学部	864	179	546	668	2,257	206	224	347	241	1,018	
教養部	460	20	0	228	708	184	77	0	0	261	
大学院環境科学研究科	782	12	0	0	794	226	18	0	0	244	
低温科学研究所	86	25	5	211	327	59	83	0	67	209	
応用電気研究所	161	37	0	206	404	207	110	3	91	411	
触媒研究所	47	14	13	11	85	67	49	16	28	160	
免疫科学研究所	66	12	0	31	109	85	48	0	10	143	
事務局											
学生部											
大型計算機センター	13	12	0	0	43	27	26	0	0	53	
スラブ研究センター	43	2	10	122	177	449	69	210	40	768	
図書館	6,119	128	1,037	1,053	8,337	1,213	138	121	415	1,887	
教養分館	3,587	181	218	11	3,997	63	11	0	1	75	
合計	30,214	2,263	4,766	7,464	44,707	17,417	4,768	2,670	1,866	26,721	

注，雑誌は種類数とする。

昭和52年度附属図書館利用統計

閲覧室名	一般閲覧室		開架図書室		語学演習室	参考図書室	北方資料室	合計
	館内閲覧	館外貸出	館内閲覧	館外貸出				
開館日数	283日	283日	269日	269日	269日	290日	290日	
文学部	387人	1,358人	(入室者統計なし)	3,053人	223人	945人	233人	
教育学部	128	278		497	16	141	69	
法学部	1,000	2.463		5,536	360	1,218	63	
経済学部	96	378		1,733	425	325	45	
理学部	71	140		2,929	131	169	58	
医学部	15	3		385	28	16	8	
歯学部	4	1		147	1	7	2	
薬学部	4	4		444	3	19	1	
農学部	37	57		1,320	273	60	124	
工学部	65	41		1,358	37	68	47	
獣医学部		2		92		12	7	
水産学部	4			4	2	0	3	
教養部	358	505		4,299	463	176	73	
各種学校	10	4		298		0	0	
各研究所						19	15	
教官	117	1,977		457	30	—	—	
院生	108	2,328		1,116	186	—	—	
職員	69	252		779	77	—	—	
学外者	598	405		13	72	301	807	
利用者合計	3,071[1]	10,196	—	24,460	2,277	3,476	1,555	45,035
利用冊数	8,330	22,145	13,601	30,016	2,596巻	149	1,235	78,072

1) 図書の貸出しをうけた人数（座席だけの利用者は含まず）
2) 館外貸冊出数（室内利用は含まず）

◎昭和52年度　附属図書館マイクロ・電子複写業務実績　（館内分を除く）

複写種類 / 申込者	件数[注] (件)	複写論文点数 (点)	マイクロフィルム (コマ)	マイクロフィッシュ (枚)	引伸焼付 (枚)	ゼロックス (枚)	リーダープリンタ (枚)
学内者	1,107	2,003	2,121	72	6,149	18,232	2,563
学外者	2,055	4,372	3,567	0	220	54,198	286
合計	3,162	6,375	5,688	72	6,369	72,430	2,849

注）件数は申込延人数と同じ（複写不能分は含まず）

◎昭和52年度　学外への文献複写申込件数　(参考掛経由の分)

部局	文学	教育	法学	経済	理	医	歯	薬	工	農
件数	432	64	287	101	191	3	104	28	299	124
部局	獣医	水産	低温	応電	触媒	免疫	教養	附属図書館	環境科学科	
件数	42	43	13	8	0	4	4	45	3	1,795

うち国外申込件数　518件 (アメリカ309, イギリス54, カナダ44, フランス28, ソ連22, 西独16, オランダ9, スイス6, 東独5, ノルウェー4, ベルギー, イタリヤ, オーストラリア各3, フィンランド, オーストリア, インド各2, その他6)

◎昭和52年度　図書館相互貸借　(参考掛経由の分)

他館への貸出　61件　(国外へ0件)
他館よりの借用　180件　(国外より46件)

◎昭和52年度　教養分館閲覧統計表　(開館日数273日)

館外貸出統計表 (所属別)　昭和52年4月1日～昭和53年3月31日

学部	文学	教育	法学	経済	理学	医学	歯学	薬学	工学
冊数	1,508	133	872	372	2,171	979	62	370	2,155
人数	880	82	570	213	1,324	644	36	244	1,323

学部	農学	獣医	教養	附属施設	大学院	教官	職員	水産	学外	合計
冊数	739	271	47,622	394	388	246	1,501	1	10	59,794
人数	416	173	32,696	230	258	148	877	1	6	40,071

館外貸出統計表 (分類別)

類別	0	1	2	3	4	5	6	7	8
冊数	656	2,879	282	5,547	1,090	20,843	1,357	1,906	11,756
類別	9	文庫・新書	雑誌	テープ	学部生への指定図書				合計
冊数	3,849	6,853	130	1,556	1,090				59,794

但し教官指定19,796冊含む

入館者数
284,970

Peter Gruber

西ドイツ図書館技術研究所 (Arbeitsstelle für Bibliotheks-technik, ABT) における雑誌データ・バンク

以下は Peter Gruber ; Die Zeitschriftendatenbank bei der ABT. ABT-Informationen 25, S. 33-38, 1977 の訳である。西ドイツの図書館におけるデータ処理技術の導入，及び機械化による図書館網の拡大は，同国の学術振興会，国立図書館の指導と援助のもとに，州立図書館と大学図書館が共働する形をとりながら，かなり組織的に行われているようである。特に学術雑誌については，国立図書館・図書館技術研究所が広域的な雑誌データ・バンクを開発しつつあり，その成果の一つとして各種のユニオン・カタログ (Gesamtverzeichnis) を刊行している。

本論文は，雑誌データ・バンクの基本構想，現状，及び将来の開発課題を概観することを主眼としているが，同時に，西ドイツにおける図書館の機械化の“組織性”をも示唆しており，我々にとって極めて興味深いものである。事の理解のために，拙訳が多少なりとも役立てば幸いである。

最後に，本論文の訳出を快く許可下さった Gruber 氏に厚く感謝する次第である。

(訳者　閲覧課参考掛長　山本幾夫)

1. ABT 雑誌データ・バンクの主要課題

ABT 雑誌データ・バンクは１つの統合システム (Verbundsystem) であり，これには中央機関—図書館技術研究所と国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門 (Abteilung Gesamtkataloge und Dokumentation, Staatsbibliothek Preussischer Kulturbesitz)—のほか，現在次の図書館が協力している；

AGB (Amerika-Gedenk-Bibliothek) Berlin, UB der Freien Univ. Berlin (以下 UB=Universitätsbibliothek), UB Bonn, UB Kaiserslautern, UB Karlsruhe, UB Konstanz, UB Mannheim, UB Saarbrücken, UB Stuttgart, WLB (Württembergische Landesbibliothek) Stuttgart, UB Tübingen, UB Tübingen/Neuphilologie, UB Ulm。雑誌データ・バンクの業務では，特に２つの目標が追求されている；

a) 図書館のために目録作業の補助手段を提供すること，またこのことによって，RAK (Regeln für Alphabetische Katalogisierung) に準拠した雑誌目録作業の標準化に役立つこと。

b) 相互貸借の調整手段になること。

これらの目標は，特に雑誌目録の作成によって達成されるものである。ここでいう雑誌目録とは，広域的 (überregional) なものと同時に，地域的 (regional) ないしはローカルな目録，更らには専門分野の目録 (Fachverzeichnis) を指している。ABT の雑誌データ・バンクは，ドイツ学術振興会 (Deutsche Forschungsgemeinschaft) の委託でなされた「データ処理の導入による雑誌目録作業のための勧告」[1] によって，広域的な雑誌目録と専門分野の目録の作成を特別に業務づけられている。地域的，ないしはローカルな雑誌目録は，該当地域内に作業能力を有するセンターや雑誌データ・バンクが存在しない図書館ないしは地域のために，現有の機械受容能力に応じて作成される。

雑誌目録の作成のほかに，将来はデータ交換が，ますます重要になってこよう。そこで Frankfurt/Main の市立・大学図書館では，現在 MAB 1 (Maschinelles Austauschformat für Bibliotheken 1) のフォーマットを採用している雑誌データ・バンクの誌名及び団体名データを

「ヘッセン州雑誌目録」の内部用フォーマットに転換することを考慮している。

上記の課題を果すためには，データ・プールの拡大，参加館と中央機関によるデータ・プールの管理，更らには，プログラム・システムの構築と維持，とが前提となるであろう。

以下の章で雑誌データ・バンクの構成，一般業務，及びその現状を概観することにする。そして最後に，近い将来における開発課題を鳥瞰してみたい。

1) この勧告は現在，学術振興会の専門委員会で検討されており，1978年春には，ABT-Informationen に公表される予定である。

2. ABT 雑誌データ・バンクの構成

雑誌データ・バンクは，その初期の段階では，共同データ・プールとして GZS (Gesamtverzeichnis der Zeitschriften und Serien), UB der FU Berlin, UB Saarbrücken 及び WLB Stuttgart の誌名，所蔵，団体名の記入を包括していた。

新らたな強力な参加機関（例えば Gesamtverzeichnis deutschsprachiger Zeitschriften und Serien, GDZS）が加入したこと，それによってデータがかなり増大したこと，そして雑誌データ・バンクのような統合システムが協同作業をする場合に生ずる諸問題，等から，プロジェクトの急激な拡張に適合するような，ABT 雑誌データ・バンクの総合構想 (Gesamtkonzeption) を確立する必要が生じたのである。かくして，国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門に中央編集部 (Zentralredaktion) が設けられ，更らに学術振興会の要請により，雑誌データ・バンクの運営理事会 (Steuerungsgremium) が設立された。この理事会が，本データ・バンクの構成とその組織に関する構想を策定したのである。広域的な ABT 雑誌データ・バンクに関するこの組織構想では，「中央運営機関」と「雑誌データ・バンク機関」とが互に峻別されている。

2.1 中央運営機関 (Zentrale Dienstleistungseinrichtungen)

中央運営機関とは，図書館技術研究所 (ABT) と国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門を指すが，両機関の間には業務上の区別がある。

ABT は，システム開発とデータ処理を重点に雑誌データ・バンクの活動に関与する。データ処理のための諸プログラムは，システム開発の枠組の中で作成，文書化され，管理される。ABT は提供されたデータの機械処理のほか，以下のことがらに関する権能を有している。新規収録リスト (Einleseprotokoll)，雑誌データ・バンクの全所蔵リスト (Gesamtausgabe) 及びその補遺版，を定期的に出力すること，各種の雑誌目録（総合目録，専門分野目録，等）を作成すること，ならびに出力フォーム（高速印刷版，写植版，COM 版）を決定すること，などである。

国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門は，次の点を重点に雑誌データ・バンクの活動に関与する，即ち，誌名，所蔵，及び団体名の各記入を EDV (Elektronische Datenverarbeitung) と RAK に適合させながら，それぞれのファイルを拡張すること，誌名及び団体名の中央編集部 (Zentralredaktion) を通じて，データの書誌的な調整を行う，等である。データ・プールの拡張は次のように行われる。つまり，総合目録・ドキュメンテーション部門のドイツ語及び外国語編集部がカタログの形で保有している資料を入力していく，他方，雑誌データバンクに流入する記入を，重複記入のコントロールと第2次校正により検査し，これらの記入の書誌的な調整を計る，という方法である。

2.2 雑誌データ・バンク機関 (Organe der Zeitschriftendatenbank)

雑誌データ・バンク機関とは，運営理事会，データ・バンク委員会，RAK 研究グループ，及びデータ・バンク参加館作業部会を指している。

運営理事会 (**Steuerungsgremium**) はデータ・バンクの基本問題について権能を有している。基本問題とは，開発と産出物についての原則と優先順位の決定を含む，目標設定，及びデータ・バンクにおける雑誌目録作業の調整に関連して生ずる原則的な問題をいう。更らに運営理事会は，データ・バンクへの新規加盟館の採択を決定し，他の委員会との間で意見の相違が生じた場合，その調停の役を果すのである。

運営理事会の現在の構成は次のとおりである。つまり ABT，国立図書館，ABT 監査部，学術振興会図書館専門員からそれぞれ1名ずつの代表者と，学術振興会図書館委員会によって任命された2名の代表者から成っている。

データ・バンク委員会 (**Datenbankausschuss**) は，雑誌データ・バンクの運営に関する実際的，基本的な問題を取扱う。データ・バンク委員会の中心課題は雑誌データ・バンクの稼動能力の確立と改良である。この委員会は，運営理事会によって定められた枠内で，人的，物的及び運営規則上の諸条件を考慮しながら，所要の決定を下す。

そのために当委員会は特に次の課題を重視する。

—作業フローの策定とその確立

—年間産出計画の策定

—プログラム化計画の確立

—計画の優先順位の決定

データ・バンク委員会は，ABT，国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門のそれぞれ3名ずつの代表者によって構成されている。委員長とその代理者は，それぞれ2年交替で ABT，国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門から任命される。

データ・バンク委員長は，総合的な対策が実施されるよう監督するとともに，対外的にデータ・バンク委員会を代表する。データ・バンク委員会の開催期間以外で短期的に発生する問題は，委員長とその代理者の一致で調整される。

RAK 研究グループ (**RAK-Arbeitsgruppe**) はデータ・バンク委員長の委託により，雑誌データ・バンク参加館による RAK の普及と応用のための指針を作成する。またこのグループは，穿孔フォーム (Ablochschema) の書誌に関する部分を処理し，その定常的な調整に協力する。

RAK 研究グループのメンバーは，目録作業ないしは，目録規則上の諸問題を研究している図書館専門職で構成されている。雑誌データ・バンクの参加館になっていない図書館の代表者も，このグループで協働することが出来る。

データ・バンク参加館作業部会 (**Arbeitsgemeinschaft der Datenbankteilnehmer**) は雑誌データ・バンクの個々の参加館の利益を代表している。この会は参加館の希望と要求を審議し，調整するために，定期的に年2回の会議を招集する。ここでの決議案は更らに審議をつくすため，データ・バンク委員会に送られるか，ないしは，基本的に重要な問題である場合には，データ・バンク委員会の態度決定を付して，運営委員会に提出される。

データ・バンク参加館作業部会は，参画しているそれぞれの相互貸借地域 (Leihverkehrsregion) から選出される最大限2名の代表者によって構成されるが，この場合，該当地域において，大学図書館，州立図書館，ないしは中央専門図書館 (Zentrale Fachbibliothek) のいずれか最少限2館が，雑誌データ・バンクの参加館になっていなければならない。代表者の選出に際しては，雑誌データ・バンクへの参画程度が，出来るだけ考慮されることになっている。

3. 雑誌データ・バンクにおける一般的業務手続

雑誌データ・バンクは，1つのマルチ・ファイルシステム (Mehrdateiensystem) で誌名

ファイル，所蔵ファイル，及び団体名ファイルを包括している。

それぞれのファイルにデータを入力するには，それぞれの規定があり，それらに対応して業務手続も異っている。例えば，誌名記入に関しては，目録作成館が初校を了えるまで責任を持ち，それ以後は誌名・中央編集部 (Zentralredaken/Titel) の責任となる。所蔵ファイルにおいては，所蔵データが場所によって異る性格をもつので，個々の参加館の通則が有効となっている。団体名の記入は，個々の参加館から，団体名ファイル・中央編集部 (Zentralredaktion/Körperschaftsdatei) を経由して雑誌データ・バンクに入力される。

業務手続の詳細は以下のとおりである；

データ・バンク参加館は，現行のデータ・バンク全所蔵リスト，ないしはその累積補遺版を手がかりに，所蔵雑誌を点検する。タイトルが雑誌データ・バンクにある場合は，所蔵記入を作成する。タイトルが全所蔵リストないしは補遺版で確認できない場合は，雑誌データ・バンクの穿孔フォームに従って誌名記入が作成され，それに対応する記入が機械可読形のデータ媒体に変換される。その後，ABT においてマシン処理が行われることになる。ここで新規収録リスト (Einleseprotokoll) が作成されるが，このリストには誌名記入が，予稿のかたちで出力されている。さらに，エラーリスト (Fehlerprotokoll) によって不正確な記入が指示される。データ提出館は，その都度，初稿を義務づけられるが，新規収録リストは，その際の原稿となるものである。それ以後の校正—例えば，ほかのデータ・バンク参加館の希望によるもの—は，すべて誌名・中央編集部によってオン・ラインで処理される。

所蔵ファイルの作業手続きも同様であるが，必要な校正は専らそれぞれのデータ・バンク参加館によって行われている。

団体名記入は，雑誌データ・バンクの穿孔フォームに従って作成されたのち，団体名・中央編集部 (Zentralredaktion/Körperschaften) あてに送られ，そこで一括して雑誌データ・バンクに入力される。

4. 現　　状

4.1 雑誌データ・バンクの収録範囲

雑誌データ・バンクの収録範囲は，この2年間でかなり拡大した。例えば，現在の月間の増加は，誌名ファイルの記入数で3,000以上，所蔵ファイルの記入数で約12,000にのぼる。

それぞれのファイルについては次のようになっている。

	1976年11月	1977年11月	増加数
誌名ファイル[1]	74,000	113,000	39,000
所蔵ファイル	215,000	357,000	142,000
団体名ファイル	67,000	72,000	5,000

1) RAK によるタイトル数

これらの数字を更らに詳しく分析すると，雑誌データ・バンクに報告されたタイトルの約55%が，ドイツ語によるものか，ないしはドイツ国内で出版されたものであることがわかる。タイトルの56%以上が1945年以降に創刊されたものである。

所蔵データには，ドイツ連邦共和国及び(西)ベルリンに所在する大部分の学術図書館のものが含まれている。学術図書館のほとんどが大学図書館である。この所蔵データは，雑誌データ・バンク参加館から直接送られたものか，ないしは国立図書館総合目録・ドキュメンテーショ

ン部門のユニオンカタログ編集部 (GZS=Gesamtverzeichnis der Zeitschriften und Serien, GDZS=Gesamtverzeichnis deutschsprachiger Zeitschriften und Serien, GAZ=Gesamtverzeichnis auslängischer Zeitschriften 等) から得られたものである。

4.2 雑誌目録

本年は，データ・バンク参加館あての業務用リストのほかに，特に次の雑誌目録が作成され，すでに刊行されているか，あるいは出版予定になっている；

出版物	日付	総記入数[2]	誌名記入数(主記入)	所蔵記入数
GZS (写植版)	77年4月	92,574	18,776	61,968
Stuttgarter Zeitungen	77年5月	2,633	1,145	1,074
Datenbank-Gesamtausdruck und Perm-Index[3] (マイクロ・フィッシュ)	77年5月	437,148	92,073	277,228
UB Karlsruhe (写植版)	77年6月	22,395	7,596	7,024
Fachverzeichnis Theologie der UB Tübingen (写植版)	77年11月	5,815	1,808	1,664
Tübingen/Neuphilologie (写植版)	77年11月	9,185	2,866	3,065
Gesamtausdruck der Körperschaftsdatei der Zeitschriftendatenbank	77年11月	129,271	72,178	—
Perm Index zum Gesamtausdruck der Körperschaftsdatei	77年11月	57,639	—	—

2) 主記入，参照，所蔵記入の合計
3) Perm-Index は統計に含まれていない

4.3 研究開発

データ交換の観点からすれば，雑誌データ・バンクのオフ・ライン業務はかなり，過去的な状況になりつつある。従って，現在の研究開発はオン・ラインに集中している。更らに試行段階として，オン・ラインによる即時的な所蔵確認の実験が既になされている。国立図書館総合目録・ドキュメンテーション部門とベルリン自由大学の図書館は，現在でも雑誌データ・バンクのファイルにオン・ラインでアクセスできる。

更らに現在，雑誌データ・バンクの検索システムの導入について実験がなされている。このシステムでは，資料名，ないしはある場合には，団体名からの件名によって，誌名と，それに該当する所蔵記入が検索されることになるであろう。

データ交換の分野では，ヘッセン雑誌目録編集部との共同作業が最も成功している。データ交換は，交換フォーマット MAB 1 を介して展開されることになろう。そこで，雑誌データ・バンクの誌名ファイルと団体名ファイルは，すでに MAB 1 のフォーマットで存在している。更らに本年末には，ヘッセン州において，MAB 1 の内部用フォーマットへ変換するプログラムが完成されることになろう。現在は，その逆方向 (ヘッセン MAB 1 データの ABT フォーマットへの変換) で業務がなされている。

視聴覚資料目録 (ビデオ資料 3)

題名 (作品名)	時間(分)	指導・監修等	
(医学，心理関係)			
発汗 医療技術セミナー教材 1	26	東京滋恵医科大学病院長	阿部正和
循環器の基礎 〃 2	27	国立病院医療センター麻酔科医長	山下九三夫

題名（作品名）	時間（分）	指導・監修等
人類と細菌の戦い医療技術セミナー教材 3	27	順天堂大学病院長 小酒井 望
脳 〃 5	31	鹿児島大学教授 朝倉哲彦
末梢循環 〃 6	27	東京大学講師 三島好雄
降圧剤 〃 8	27	東京女子医科大学教授 杉野信博
筋肉 〃 9	30	東京学芸大学教授 小野三嗣
肝臓 〃 10	30	東京大学第一内科 遠藤康夫
人体を見る (1) 〃 11	27	金沢医科大学 武田昭男，小田島粛夫
〃 (2) 〃 12	28	同上
〃 (3) 〃 13	28	同上
〃 (4) 〃 14	32	同上
〃 (5) 〃 15	25	同上
局部診断学レベル診断 1	32	東京女子医科大学教授 丸山勝一
局部診断学レベル診断 2	25	同上
肝臓癌胎児性蛋白と肝ガン	29	北大医学部生化学 平松秀松
環境適応と内分泌	29	北大医学部生理学 伊藤真次
膵液分泌と消化管ホルモン	29	北大獣医学部生理学 菅野富夫
子供と注射	30	
心理と生理	13	東京教育大学 岩原九郎
概念学習と問題解決	14	京都大学 梅本堯夫
知覚	30	横浜市立大学 加藤義明
動物の学習	30	東京教育大学心理学 藤田統，牧野順四郎
行動観察法	15	北大教育学部 三宅和夫
初期行動	14	お茶の水女子大学教授 浅見千鶴子
記憶の実験	13	慶応義塾大学教授 印東太郎
(自然科学関係)		
メダカの卵	19	東京都立大学理学部発生学研究室
ファーグル昆虫記の世界 ～カリバチ習性と本能～	30	神戸大学教授 岩田久二雄
植物群落の移り変り	22	
沼地の世界	24	
地震予知への道 ～松代地震をめぐって～	28	東京大学地震研究所
自然界のつり合い ～動物の数は何で決まるか～	30	農林省 農業技術研究所 伊藤嘉昭
かえるの誕生	15	科学映画研究会
蜂の生活	45	日本昆虫会々員 岩田久二雄，守本陸也
野尻湖発掘の記録	30	野尻湖発掘調査団
(体育関係)		
テニス教室 ～軟式テニスの基本技術～	20	日本軟式庭球連盟 斎藤孝弘
バレーボール教室	16	日本バレーボール協会
(語学関係)		
Borne du Vieux Monde	17	
Cantal	13	

題　　名（作品名）	時間（分）	指導・監修等	
Chateanx et Rivieres	21		
Coeur de la France	18		
Douceur du Village 1	25		
〃 〃 2	23		
Eygalieres, Commune de France	33		
Genese de Paris	13		
Heures de Lyon	27		
Inconnus de la Terre 1	22		
〃 〃 2	20		
Seine Rencontre Paris	31		
Semaine en France	16		
Chansons de Gestes	21		
Jour de Marche	12		
Sillages	16		
（文学関係）			
漱石の世界	22	上智大学教授	霜山徳爾
（体育関係）			
テニス教室 ～軟式テニスの基本技術～	20	日本軟式庭球連盟	斎藤孝弘
バレーボール教室	16	日本バレーボール協会	
（管理関係）			
あなたも防火管理者	20	東京消防庁	
煙の恐怖 ～ビル火災～	27	〃	
ジョエルマビルの惨事	15	トツーエンタープライス	

◇ 人事往来 ◇

新図書館委員

井上力太（工学部教授）53. 6. 1
高木光造（水産学部教授）53. 5. 1
山下　格（医学部教授）53. 9. 16

配置換

桑野勇次　大学院環境科学研究科（整理課教養分館整理掛）53. 10. 1

採　用

藤沢一教　整理課教養分館整理掛　53. 10. 1
蓮沼博子　整理課整理掛　53. 7. 3

辞　職

新川千鶴子　整理課整理掛　53. 6. 30

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」（通巻49号）
1979年1月10日 発行　発行人　矢部一郎
編集委員　横山梅雄（長）・若月　修・笹　哲夫・似鳥正吾・野地俊郎・高橋　裕・田中一郎
逵　昭二・平田忠夫・堅田政孝・山本幾夫・船木敏美・坪田充弘
発行所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2967)
印刷所　文栄堂印刷所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560-5561